



▲上の句が読み上げられると、すかさず下の句の書かれた札に手を指す予選から白熱した大会

市内外の約300人が熱戦を繰り広げる

多久市論語カルタ大会

多久市論語カルタ大会を11月16日、西溪中学校体育館で開き、市内外から参加した約300人が熱戦を繰り広げました。

15回目の今大会は、多久聖廟創建300年祭の一環として、初めて市外にも参加を呼びかけ、福岡県京都郡の豊津小児童や、一般の部には神奈川県茅ヶ崎市からも参加がありました。その一般参加者は「このような心の教育とつなげた地域振興は素晴らしい、多久市を中心に全国に広げてほしい。子どもたちが大人になった時、行動に反映されることが非常に楽しみ」と、論語の暗唱にも取り組む子どもたちの高いレベルに感心し、市民のみなさんにメッセージも頂きました。

今大会の各部優勝者（敬称略）は次のとおり。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 学年＝永井秀太（南部小） | 2 学年＝外尾拓也（緑が丘小） |
| 3 学年＝長尾美咲（東部小） | 4 学年＝高岡明佳里（緑が丘小） |
| 5 学年＝坂村小波（南部小） | 6 学年＝佐々木瑛里菜（中部小） |
| 中学生＝松本彩（西溪中 1 年） | 一 般＝山田記予美（西多久町） |

志田林三郎博士の先見性が高く評価

多久市先覚者資料館も同時に『第1回でんきの礎』受賞

120年前に唱えた電気工学の未来技術が20世紀に次々と実現し、その先見性が高く評価されている我が国の電気学会の創設者で日本初の工学博士でもある当市出身の志田林三郎（1855－1892年）と、この功績を収集・展示し、地域社会と一体となって文化活動の一端を担っている多久市先覚者資料館が電気技術の発展に尽くした人物や場所、革新的な製品を顕彰する『第1回電気技術顕彰 でんきの礎』に選ばれました。これは、社団法人「電気学会」が創立120周年を記念して制定。『モノ、場所、こと、人』の4ジャンルから10件が選定され、資料館は2部門で評価となりました。

現在、資料館では、『多久の先覚者書画展』（12月25日まで）と、『多久明治期の英傑』（来年3月末まで）開催中。郷土の先人・志田博士の足跡やゆかりの資料をぜひご覧ください。



▲顕彰状を持つのは10月17日、顕彰式（東京国際フォーラムで開催）に出席した資料館職員の志佐さん。先覚者資料館に展示の志田博士も喜びのご様子



▲川の2か所でだんごを投入。
どんな魚が見れるようになる
でしょうか
◀子どもに混じって大人も久しぶりの泥だんご作り

ふるさとの川をきれいにして、環境を守ろう！

小学生が河川の浄化活動

北部小学校と西部小学校では、10～11月にかけて『親子で守ろう身近な環境』をテーマに、自分たちが住む地域の環境を学び、EM菌を使った環境浄化活動を行いました。地域婦人会などの協力で、EM菌について学習した後、米ぬかとEM菌溶液を混ぜた泥だんごを作製。2週間後に河川に投入し、だんごの分解が進むことで、生活排水などで汚れた水質をクリーンにする試みです。

北部小学校（写真）では、5年生の児童と父兄など100人以上の参加で10月23日、1000個のだんごを作り、11月10日に学校近くの山犬原川で、魚たちがたくさん泳ぐ姿を描きながら投入しました。

ちなみに、緑が丘小学校児童が昨年行った河川では、“どんこ”の生息する姿が見られたそうです。